
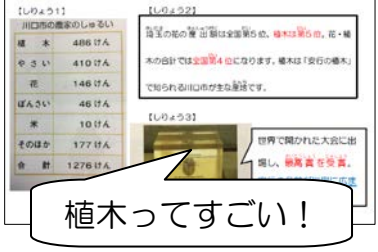

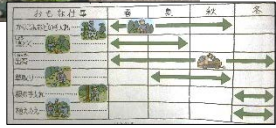




第3学年 社会科

小単元名

植木を育てる仕事

【学習計画】

つかむ	<p>① 植木の写真を見て気付いたことを話し合い、学習問題を考え、学習計画を立てる。</p> <p>学習問題</p> <p>なぜ川口市の植木業は盛んなのだろう。</p> <p>校庭のイチョウの木も植木！</p>  <p>植木ってすごい！</p> 
調べる	<p>② 植木の歴史について調べる。</p> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 川口の植木が江戸時代から始まったこと 川口の台地の水はけのよい地質が植木に適していること 今も植木農家が續いていて主要な産業であり、市を支えていること  <p>④ 植木農家を見学するとき調べたいことや疑問に思うことについて話し合い、見学の計画を立てる。</p>  <p>⑤ 埼玉植物園へ見学に行き、植木を育てる仕事はどのような</p> <p>⑥ 仕事をしているのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 植木農家ではどのような仕事があるのかを知ること 施設や設備、働く人の仕事の進め方を知ること  <p>⑦ 見学して調べたことをもとに植木農家の1年の仕事について調べる。</p> <p>⑧ 植木を育てるためにどのような工夫をしているか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 消毒、ねまき・水あげ  <p>⑨ 植木農家の人に植木を育てるために、どのような工夫をしているかインタビューする。</p> <p>⑩ 育てた植木はどこに運ばれていくのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 植木取引センターでせり市が行われていること 川口市や埼玉県だけでなく、全国・世界にも運ばれていること 
まとめる	<p>⑪ これまでの学習をもとに川口市の植木のすぐれていることを話し合い整理し、学習問題のまとめをする。「①土地との関係」「②作っている人の工夫(品質や努力・願い)」「③他の地域との関わり」の3つを整理することで答えを出す。</p> <p>学習問題のまとめ</p> <p>川口市の植木は、昔から続いている。また、今もなお川口市の農業の中でも1番の生産をほこっている。植木農家では品質のよい植木を作るために季節に合った仕事をしていて、作られた植木は日本中の人たちが買っている。それによって、川口市の植木は(今でも有名であり、私たちの住むまちには植木がたくさんある。)</p> 

【研究協議】

<「つかむ過程」で問題意識を高める手立て>

- ・「植木」との出会わせ方は、子ども達の実態に合わせられていたのはよい。
- ・「植木」自体のおさえ方が不十分であった。子どもに浸透しきらずに進んでしまった。
(どんな形か、売られ方、大きくなる前の様子など)

<資料の読み取らせ方の手立て>

- ・資料は中心資料一つに絞り、じっくりと読み取らせるほうがよい。児童の実態に応じた資料の量を準備すべき。
- ・子ども達の興味をひくように、少しずつ隠しながら提示するとよい。子ども達自身で、問題を発見できるようにしていきたい。
- ・児童の思考の流れをつくる。(植木のよさ→課題へのつながり
→調べることへのつながり→まとめ方)

【指導講評】 指導課指導主事 岡田大助先生

○課題を出す前の工夫

- 知っていそうで知らないことをつく →「知りたいな」を高める(問題意識を高める)
- 極端なものを見せる 「なぜ」を引き出す
- アイデアを出し合う
- A → □ → B (真ん中をブラックボックスのようにして考えていく)

○身近な資料と発問の工夫

- 板書に資料を位置づける、大きさのバランスを考える
- 発言に対しての反応

○社会科の基本的な授業の流れ

事実 → 考える

子どもに到達させたい部分

目に見える所から目に見えない知識を身に付けさせたい

事実 → 考える → 目に見えない先へ

成果

身近な資料を使って「植木」と出会わせたことで、児童が具体的に捉えることができていた。
児童の問題意識を高める工夫が効果的であった。

課題

自分の考えについて、資料を基に根拠にできるような、取り扱い方(提示の仕方、読み取らせ方)を工夫していく。